

「唱歌の社会史

なつかしさと

あやうさと」

中西光雄、山室信一ら

8人共著

明治期からの学校教育で広められた唱歌には、近代国家としての日本および日本人をつくっていくという目的が隠されていたことに焦点を当てた。京都新聞の連載「唱歌の社会史」をきっかけに2015年に開かれた討論会内容と、パネリストらの



書き下ろし原稿で構成した。京都大名普教授の山室信一氏（熊本出身）は「唱歌と空想心性そして植民地」と題し、日本の植民地拡張に伴って唱歌が東アジア世界に広がったことについて考察している。「故郷」「我は海の子」など16曲の成り立ちも解説。

（メディアアイランド・2160円）